

各国の排出の動向について

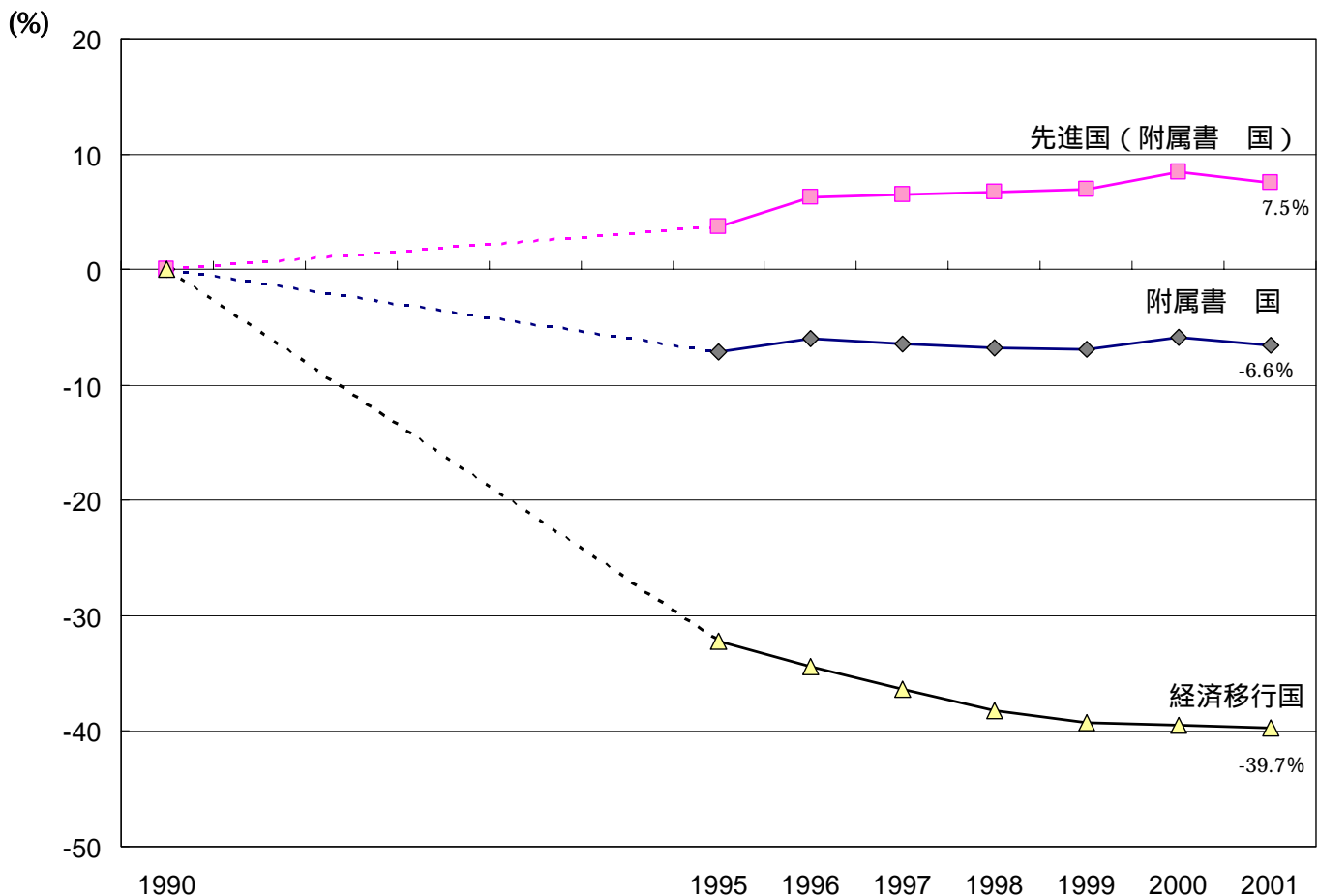
資料 6 - 1

1. 附属書 国の温室効果ガスの排出の動向

(注) 附属書 国：条約上の先進国及び経済移行国

UNFCCCのデータによれば、附属書 国全体で、2001 年の温室効果ガスの排出量は、基準年（1990 年）に比し、6.6%の減少となっている。
この内訳を見ると、附属書 国のうち、先進国（附属書 国）は 7.5%の増加となっているのに対し、経済移行国は 39.7%の大幅な減少となっている。

図 1 附属書 国の温室効果ガスの排出の動向



(出所) FCCC/SBSTA/2003/14

(注 1) 代替フロン等 3 ガスについては、2001 年時点ではデータに含まれているものの、1990 年時点のデータには含まれていない国が多い。

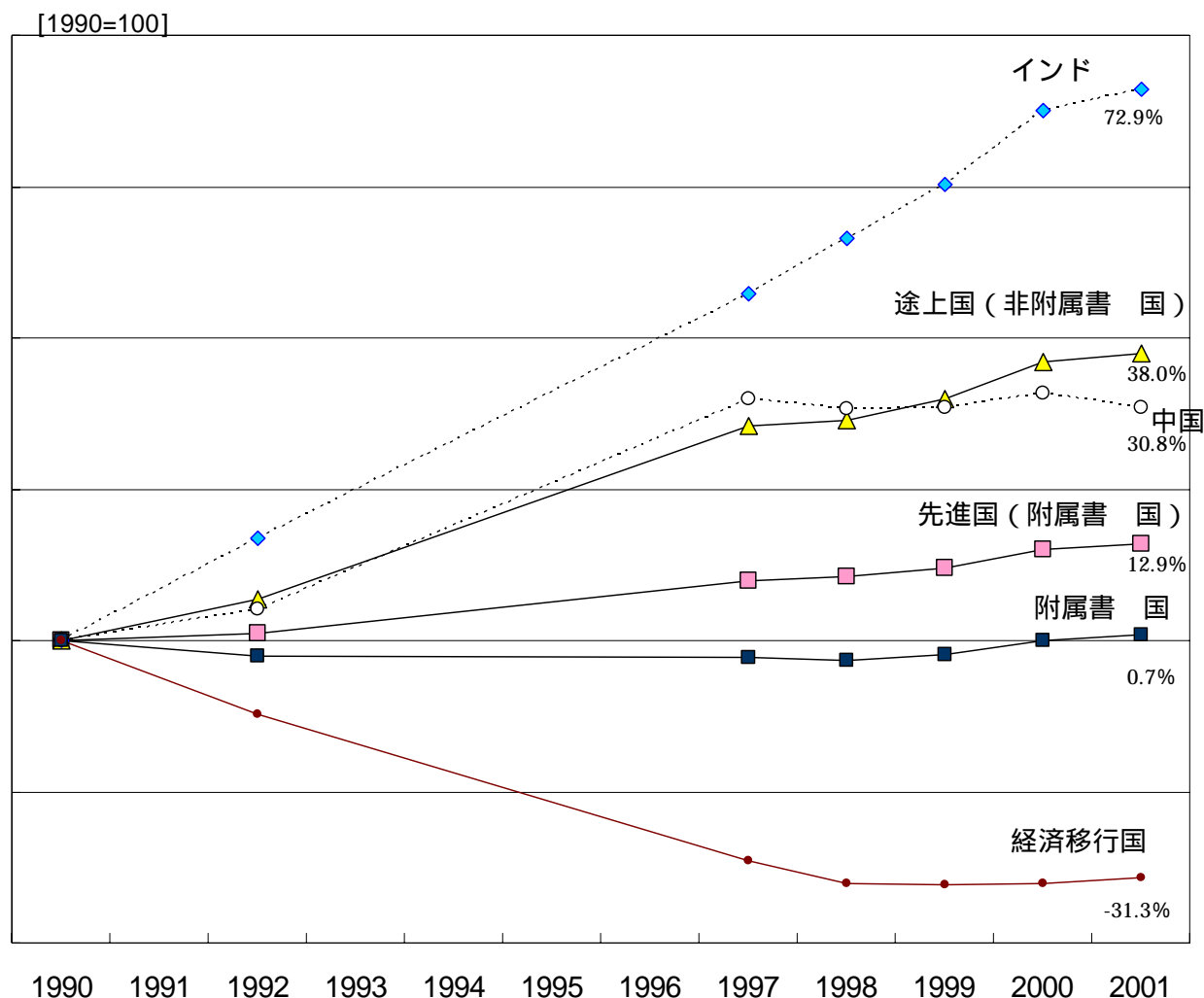
2．先進国及び途上国のエネルギー起源CO₂の排出の動向

途上国との比較を行うために、エネルギー起源の二酸化炭素の排出量を見ると、途上国全体では、2001年の排出は基準年（1990年）に比し、38%の大幅な増加となっており、附属書国の増加率0.7%、先進国（附属書国）の増加率12.9%を大きく上回っている。

主要排出国であるインドと中国について見ると、インドが一貫して増加傾向を示しているのに対し、中国はここ数年エネルギー効率の向上により排出量が横ばいの傾向となっている。

図2 先進国及び途上国のエネルギー起源CO₂の排出の動向

(%)



（出所）OECD/IEA, CO₂ Emissions from Fuel Combustion 1971-2001 2003 edition, 2003

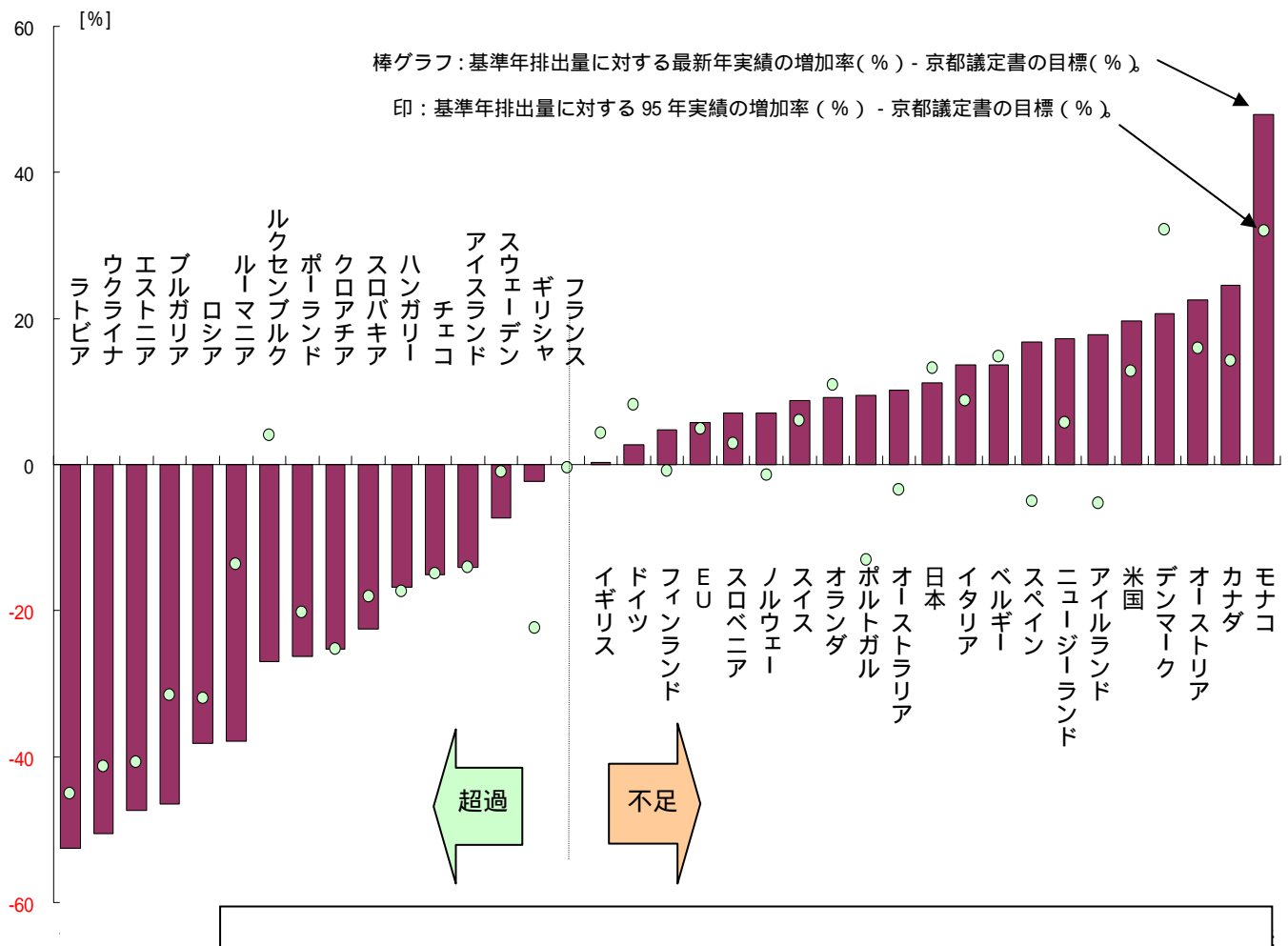
（注1）途上国（非附属書1国）には中国・インドが含まれる。

3 .2001 年における先進国及び経済移行国の排出実績と京都議定書の目標との差 (基準年に対する比率の差)

一部の欧州諸国を除き、多くの先進国では、2001 年の排出実績が京都議定書の目標を上回っており、排出実績と目標との差はむしろ拡大する傾向にある。

他方、経済移行国については、スロベニアを除き、2001 年の排出実績は京都議定書の目標を下回っており、やはり排出実績と目標との差は拡大する傾向にある。

図3 2001 年における先進国及び経済移行国の排出実績と京都議定書の目標との差
(基準年に対する比率の差)



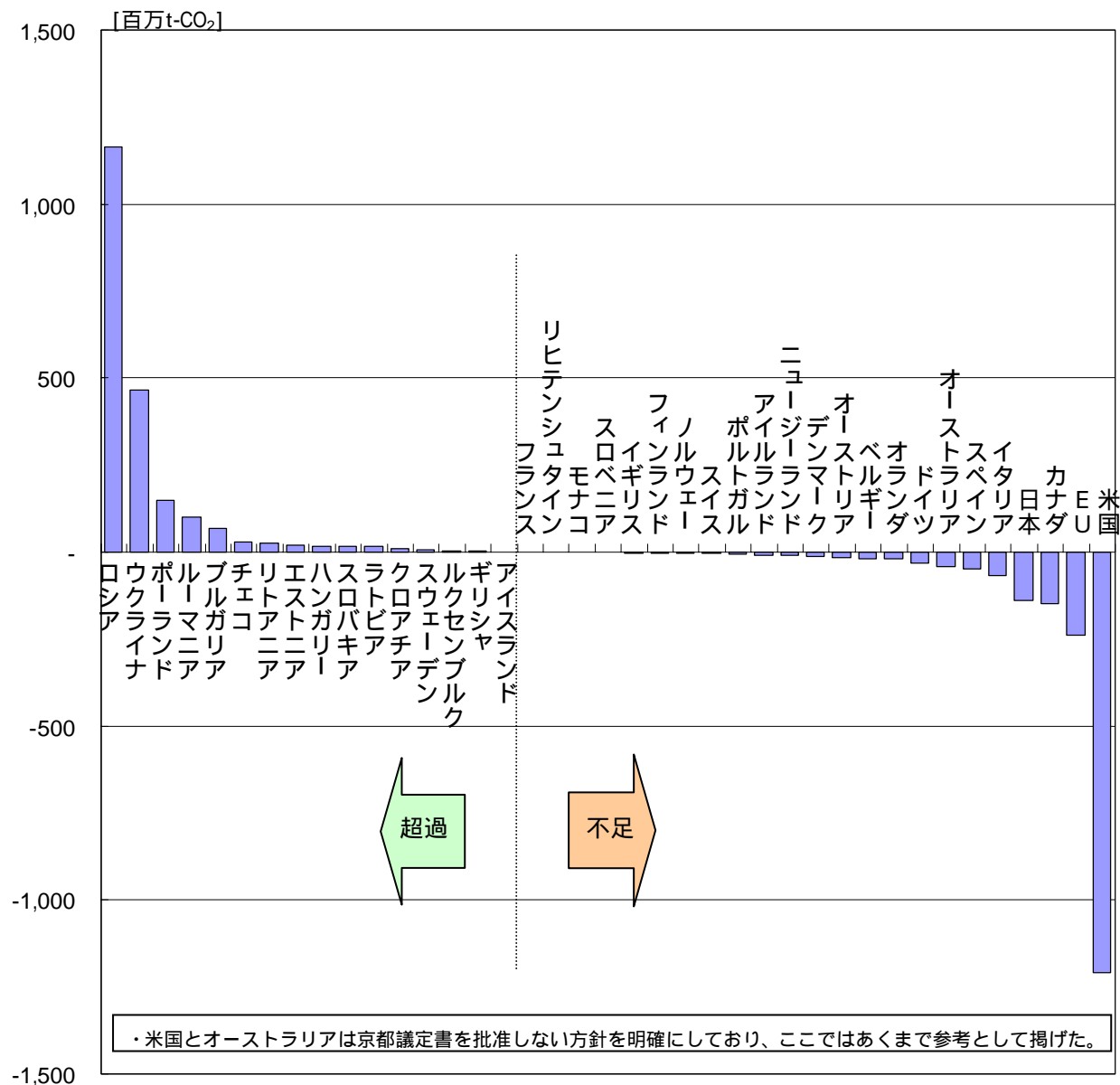
出所: FOC/SBSFA/2003/44 のデータから推計

(注1) 基準年排出量は、代替フロン排出実績(1990年と1995年実績の大きい値を選択)に応じて調整。

4 .2001 年における先進国及び経済移行国の排出実績と京都議定書の目標との差 (排出量の差)

2001 年の排出実績と京都議定書の目標との差を排出絶対量で見ると、ロシアとウクライナで大幅な余剰枠が生じている。

図 4 2001 年における先進国及び経済移行国の排出実績と京都議定書の目標との差(排出量の差)



(出)

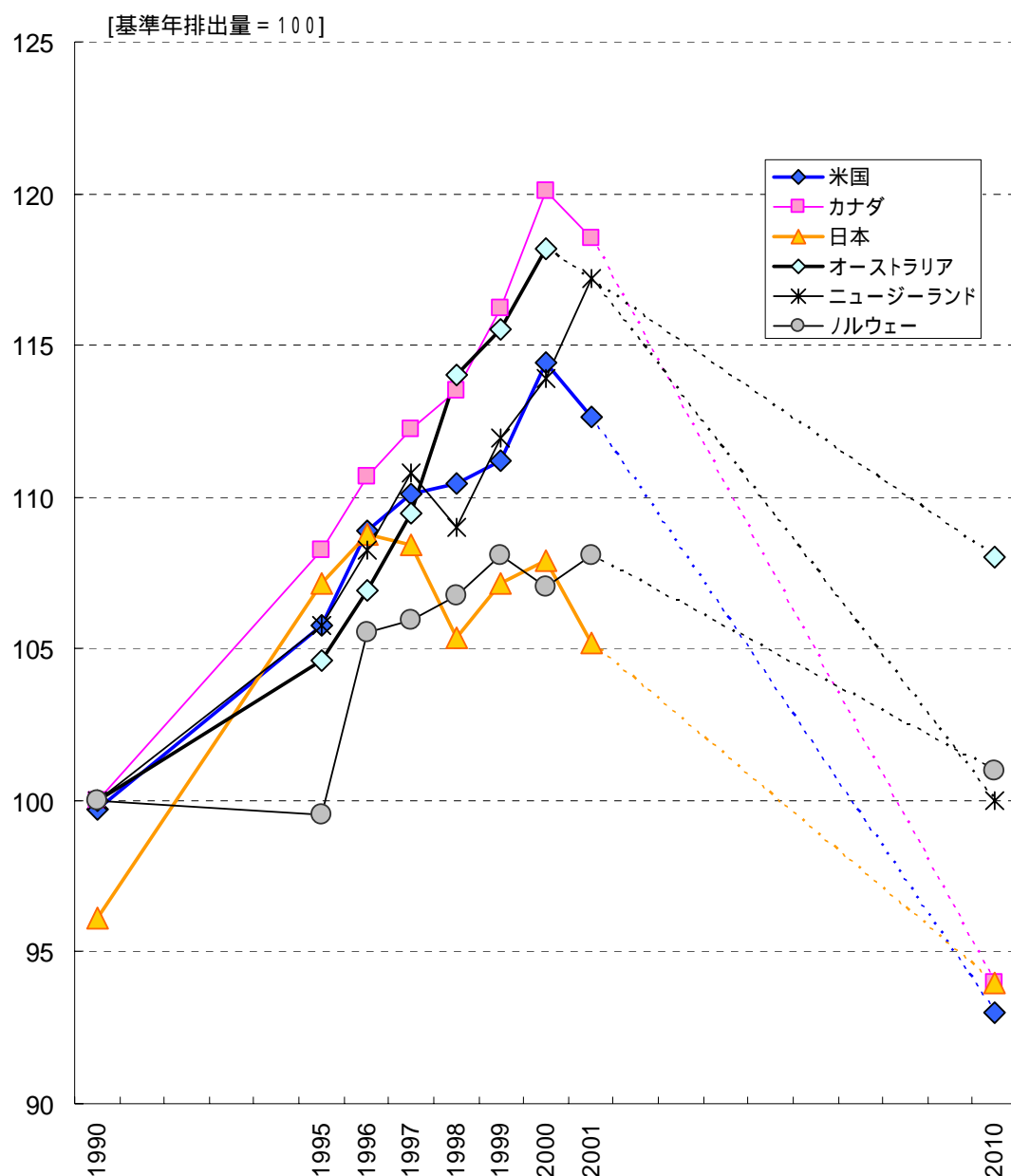
(注)

5．欧州を除く先進国の排出の動向

欧州を除く先進国では、我が国を除き、ここ数年、排出量は概ね増加傾向にある。

シンクによる吸収量を考慮する必要があるが、基準年（1990 年）に対する比率で 2001 年の排出実績と京都議定書の目標との差を見ると、カナダが最も大きい。

図5 欧州を除く先進国の排出の動向



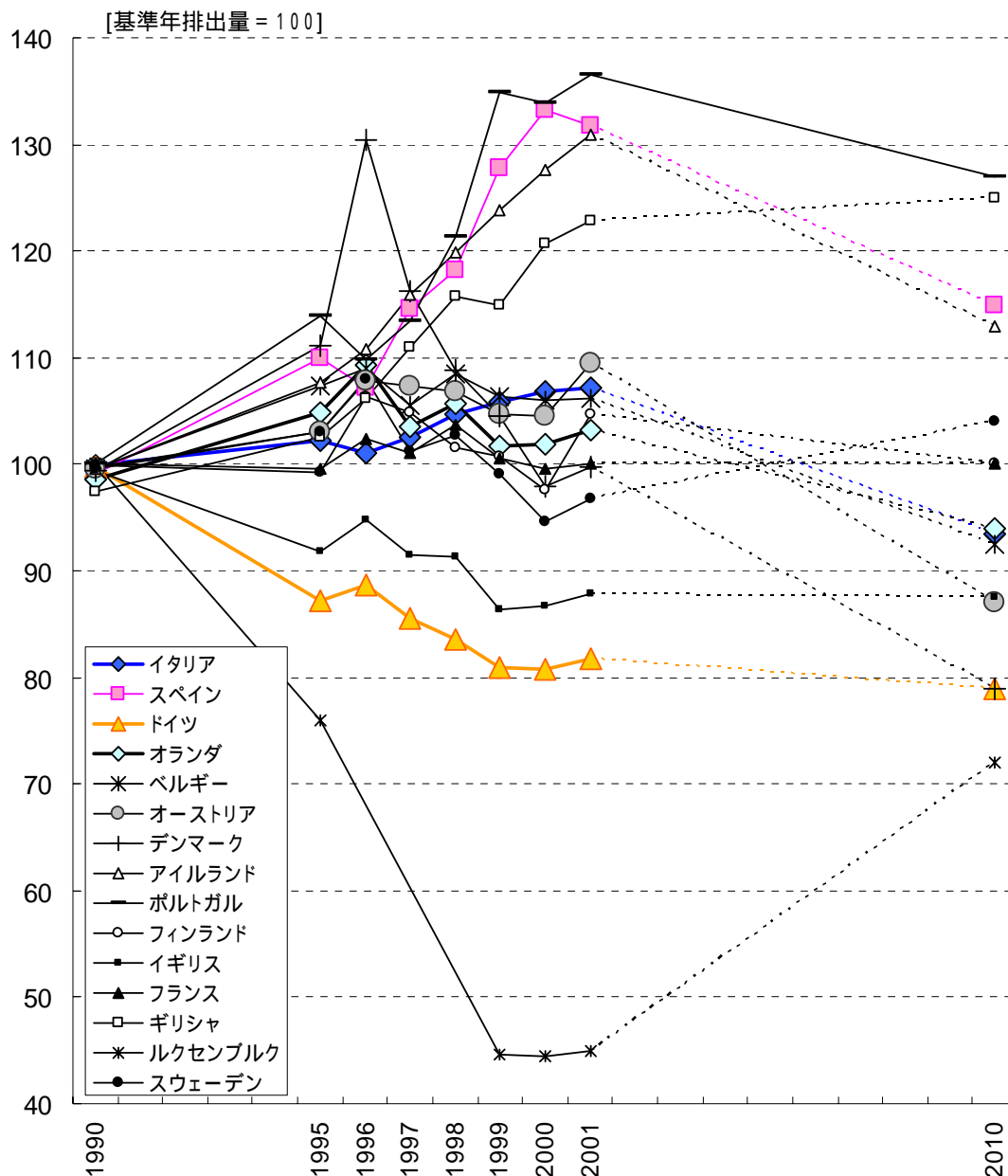
（出所）FCCC/SBSTA/2003/14 のデータから推計

（注1）基準年排出量は、代替フロン排出実績（1990 年と 1995 年実績の大きい値を選択）に応じて調整。

6．欧州諸国の排出の動向

直近の欧州委員会の報告書によると、既存政策では、京都議定書の目標達成が可能な国はスウェーデンと英国のみとしており、EU全体で、第1約束期間において基準年（1990年）に比し0.5%の減少にとどまるとの見通しとなっている。

図6 欧州諸国の排出の動向



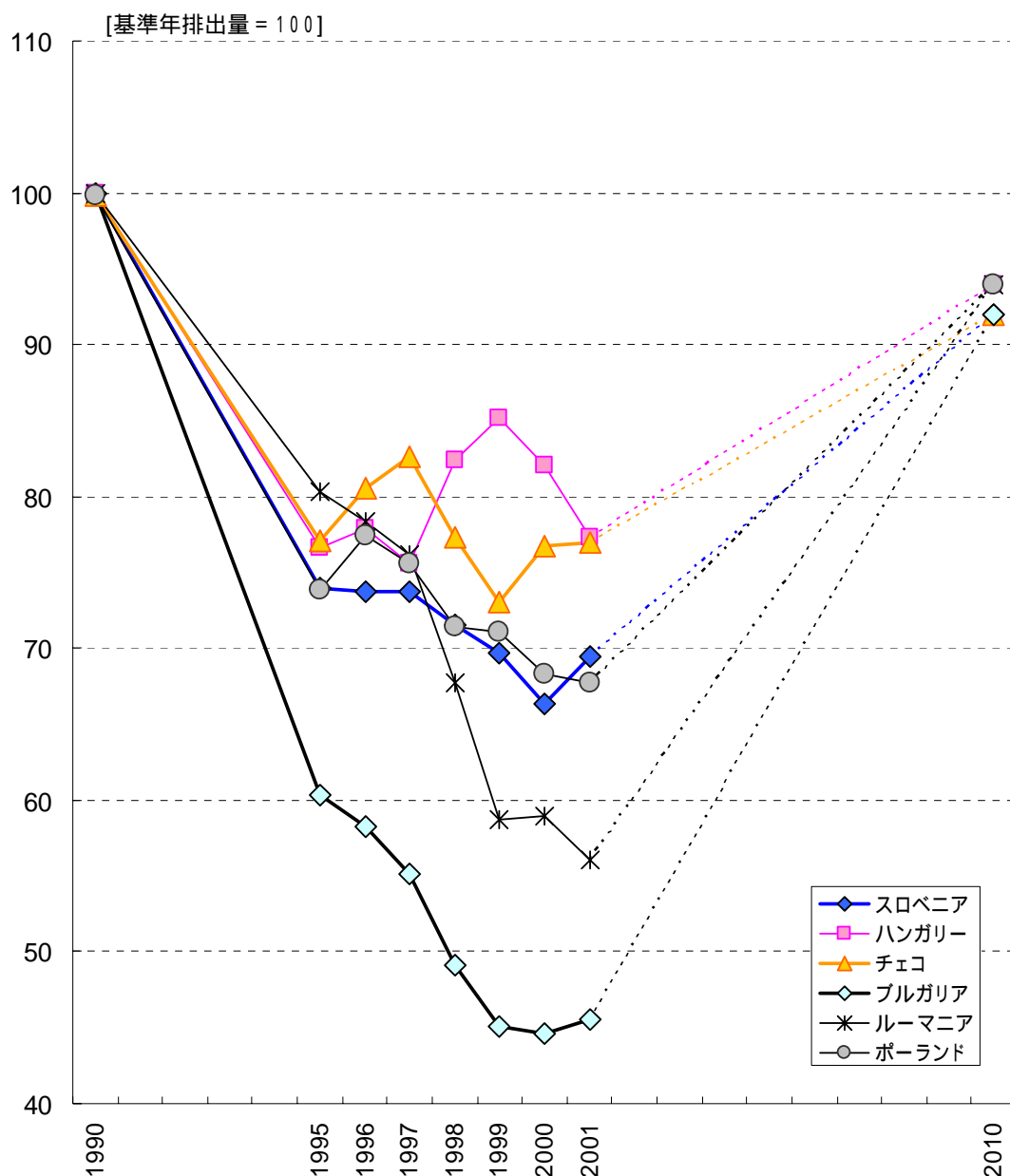
（出所）FCCC/SBSTA/2003/14 のデータから推計

（注1）基準年排出量は、代替フロン排出実績（1990年と1995年実績の大きい値を選択）に応じて調整。

7．中東欧諸国の排出の動向

経済移行国については、京都議定書の合意時に、市場経済への移行に伴う経済成長を見込んで、1995年の排出実績よりも高めの目標設定がなされたが、実際にはその後も排出量は減少を続け、余剰枠が広がる結果となった。ただし、ここ数年、排出量の減少傾向に歯止めがかかりつつある。

図7 中東欧諸国の排出の動向



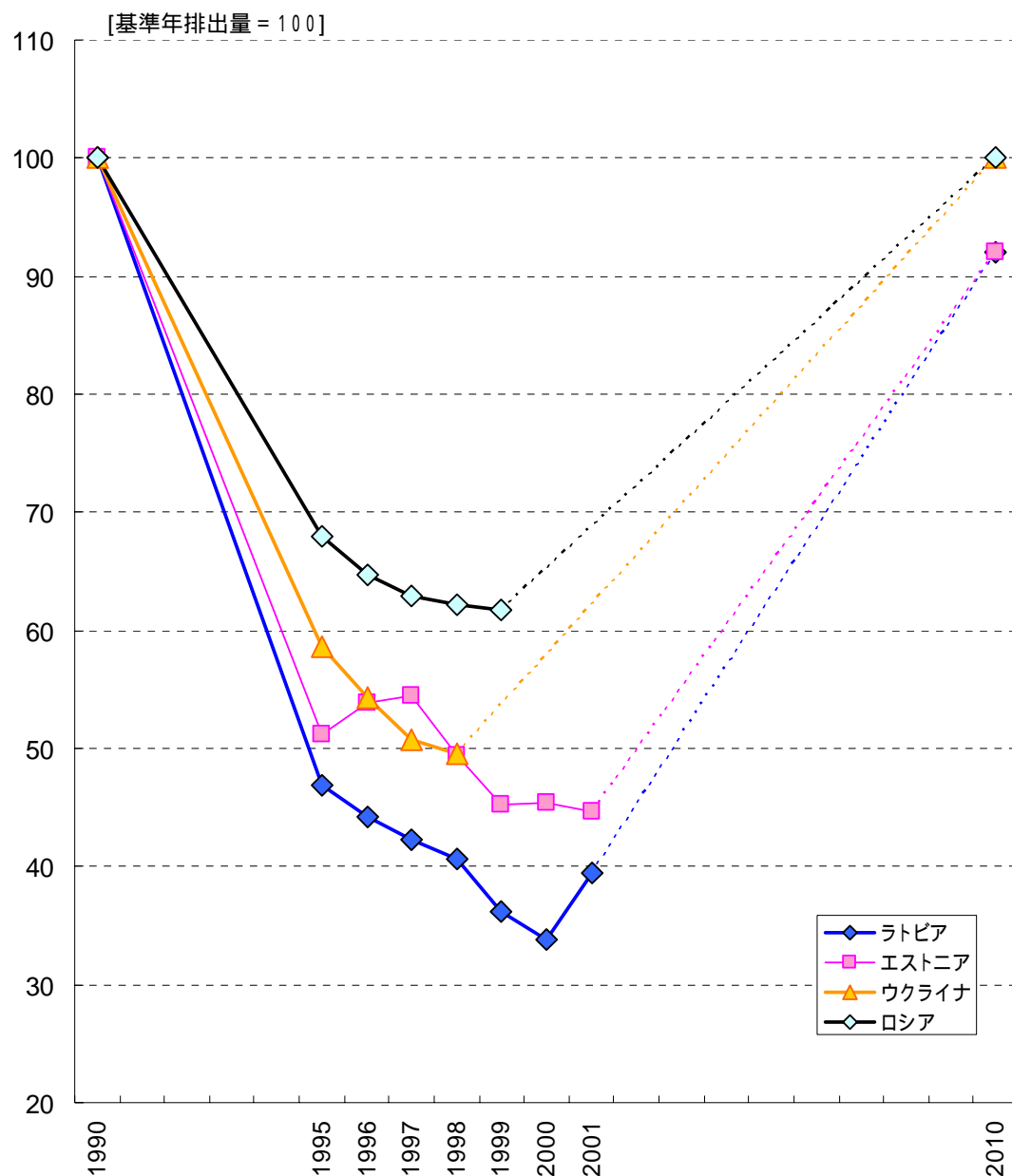
(出所) FCCC/SBSTA/2003/14 のデータから推計

(注1) 基準年排出量は、代替フロン排出実績(1990年と1995年実績の大きい値を選択)に応じて調整。

8 . C I S 諸国の排出の動向

ロシアを含むC I S 諸国も、中東欧諸国とほぼ同じ傾向を示している。

図8 旧C I S 諸国の排出の動向



(出所) FCCC/SBSTA/2003/14 のデータから推計

(注1) 基準年排出量は、代替フロン排出実績(1990年と1995年実績の大きい値を選択)に応じて調整。